



最新情報は、
X, インスタ, LINE,
発信中



語彙でつなぐ 小児 & 成人 の 勉強会 の お知らせ

2月11日 (日) 21:00~22:30

症例から語彙の獲得・障害を考える

~失語症例の語彙障害

失語症者の錯語の説明で最もよく用いられる
単語検索の相互活性化モデルを
(The Interactive Activation model)
解説しながら、実際に失語症例でみられた
錯語を考えます。



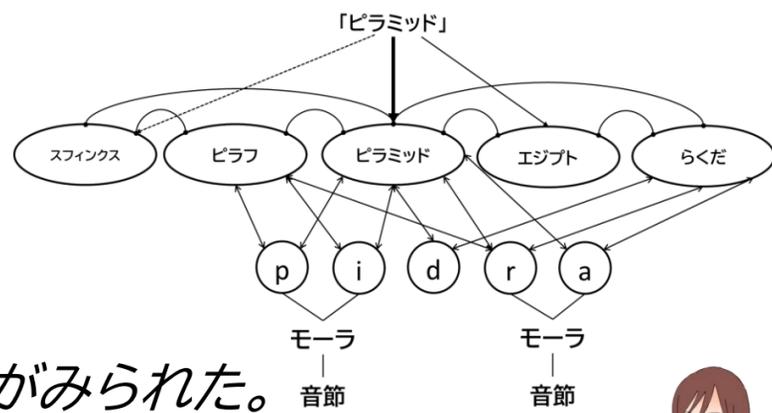
武蔵野大学
上間清司先生



コドモックル
山地純也先生

~ASD児の語彙獲得

6歳6ヶ月時に「『うちわ』が出ずに、
『夏に使うもので、上が丸くて、下は棒が付いてて、
手で棒の所を持ってパタパタする』と言う」との反応がみられた。
語彙の発達が遅れた要因を4つの評価軸 ①言語・コミュニケーション能力
②会話能力 ③知能 ④喚語能力から考えます。



2月22日 (木) 21:00~22:00

↑山本先生からのコメントもあるよ↑
そして、22日です。

発達心理学からみた語彙の獲得

幼い子どもたちは周囲のモノの名前をどのように学んでいくのか。母語を獲得している最中の子どもは、大人が外国語を学ぶ際のように母語による対訳で概念を把握することはできない。また、子どもに大人たちが単語の意味やその範囲を明示的に教えることは決して多くはない。それにもかかわらず、子どもたちは驚異的なスピードで語彙、すなわち音の羅列とその意味の繋がりを獲得していく。発達心理学では、新しいモノや聞きなれない音を子どもに提示して彼らの学習の様子を観察したり、発話を記録したりする方法を通して、この語彙獲得のプロセスを研究している。本講演では、これまでの研究を通して明らかにされてきた幼児の語彙獲得プロセスの一部を紹介する。



立命館大学
山本寿子先生

各¥1,500
セットで¥2,500



申し込みはこちら



